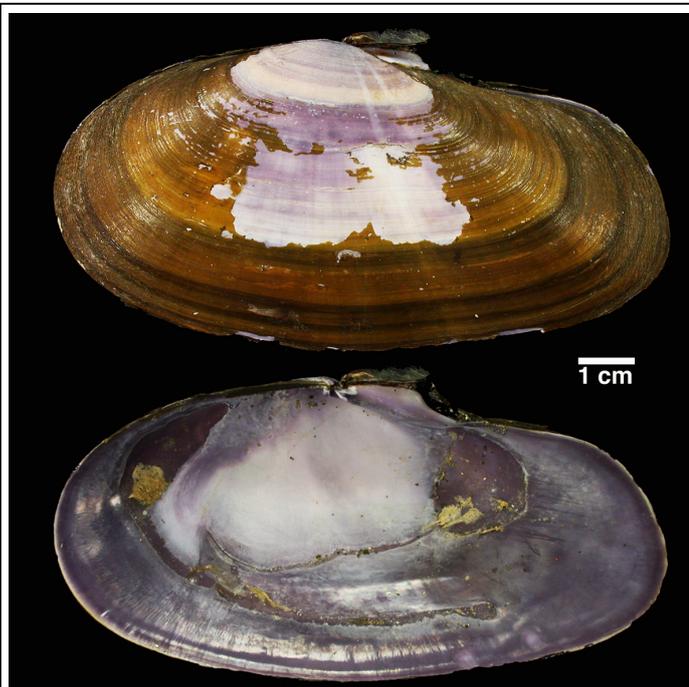


ムラサキガイ *Hiatula adamsii* (Reeve)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての砂泥干潟から潮下帯に生息する。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているのが、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。県内の伊勢湾や三河湾では、1980年代後半から2000年にかけて生貝はおろか、死殻さえ非常に稀であった。2006年、蒲郡市三谷地先人工干潟で1個体のみ生貝が採集された。その後2010年頃より、三河湾、伊勢湾で本種の回復傾向が確認され、生貝の採集例は少ないが、合弁の殻皮の保存された死殻が数地点で確認されている。前回(EN)よりランクダウンすべき種と評価された。



蒲郡市三谷地先人工干潟, 2005年7月21日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約8 cm、殻は大型で前後に長い楕円形。殻はやや薄く、濃い紫色。殻表は平滑で、褐色の厚い殻皮に覆われている。

【分布の概要】

【県内の分布】

生息が確認できない期間が長く続いたが、近年生貝が確認できるようになり、数カ所の生息地では死後間もない殻が普通に採集されるようになった。しかし、依然として生息地は多くはなく、限定される。

【世界及び国内の分布】

日本、台湾、インドネシア、国内では房総半島～九州に分布する(木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも著しく減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 2012. ムラサキガイ, p. 134.in : 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)